

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名) 有限会社 うえの福祉会
ふくの家

所在地 (県・市町村名) 鹿児島県鹿屋市上野町5200番地1

記入者名 (管理者) 田中 洋子

記入日 平成 19年 7月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1. 自分のペースで生活出来るように、暖かく見守ります。 2. 清潔な場所でオシャレをして、いつも笑顔で楽しく過ごします。 3. 家族や友人との時間を大切にします。 4. 趣味活動を生かしながら生きがい作りを持ちます。 をあげ取り組んでいる。		は、ほとんど出来ている。今後は、友人との時間や一人ひとりの生きがいづくり(趣味)を見出して行きたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	体操、歩行訓練、折り紙、ゲーム、書道、生け花、外気欲、温泉、 外食、花見、口腔ケア、散髪、家族との交流など取り組んでいる。		太鼓や大正琴など取り入れた音楽の時間を実施している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	うえのハッスルだより(新聞)など、家族へ毎月1回発送し、暮らしぶりなど見て頂いている。		利用者の趣味をもう少し取り入れた日々を考えて行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関、門扉の開放 散歩等での出会いの挨拶		通勤途中での挨拶や利用者たちの触れ合いの機会を作る
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グランドゴルフ、敬老会の声かけ 地域(町内会)の運動会、夏祭りに参加している。		利用者が交流を取れる様、行事参加を積極的に声かけする

鹿児島県 グループホームうえの(ふくの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の話し合いに参加している。運営委員会の設置で状態など聞いたりしているが、役立つまでにはなっていない		町内会などに出席し情報を集め職員会議等で話し合い、積極的に取り組む。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域交流に勤める(小学生など)		評価を素直に受け止め、勉強しさらなる改善に努力する
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、意見を頂き職員会議等で報告し、サービスの向上に役立っている		意見報告を受け止め、スタッフ一同でサービス向上に努める
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市議会議員さんや町内会長の意見を頂いたり、行事参加を頂いている		施設内行事の参加への声かけをする
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の理解はあるが、活用までは現在至っていない		勉強にて学ぶ機会を増やす
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	転落防止にて、家族へ相談しベッド柵を使用している(家族了解) 言葉や暴力等の虐待がないように努めている		今後も、職員一人ひとりが虐待に対する意識を高め、注意、防止に努める。ベッド柵については、状態観察し、家族との連携をとりながら使用せず過ごせる様に努力する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時に説明を行う</p> <p>苦情箱の設置でその都度対応に心掛けている</p>		<p>小さな事でも耳を傾けるよう努力し、苦情を大切に受け止め向上を目指すようにする</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満、苦情はその都度対応し改善に努めている</p>		<p>苦情や不満は、早急に対応出来る様心がけ、内容を報告し全員で改善する</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に利用者の生活状況、健康状態など連絡している。また面会にこれない県外の家族には電話で連絡を行っている</p>		<p>うえのハッスルだよりを発行し送付している</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情などは、その都度対応し改善している</p>		<p>運営に反映させる為、苦情処理ノートを設置し満足されるよう努力する</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ケース会議。職員会議でその都度意見交換している</p>		<p>ケース会議等必要に合わせて回数を増やす</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の就寝時間などに合わせて、スタッフの勤務時間をずらしたり、入浴日のパート職員を行い対応している</p>		<p>行事等へのボランティアなどを心掛ける</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動にてダメージを防ぐ様十分なスキンシップ情報収集をする</p>		<p>異動や離職者にて不安などないようスキンシップを十分に取る様にする</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等情報を集め参加の声かけをする		研修会等、勤務に応じ積極的に参加する
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム経営者連絡協議会等で情報交換している		他への見学、研修等の参加し勉強し反省を取り入れサービス向上をする。他の良い所を取り入れる
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務希望、勤務交替を全面的に取り入れている		食事会など、出来るだけ開きストレス解消、またチームワークづくりにスタッフ全員で取り組む
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強会への参加に声かけしている		スタッフ同志が意見を出し合える様な楽しい職場作りを心掛ける
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人や家族の話を聞いて受け止める努力をしている		話しやすい雰囲気作りに心掛ける
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から話を聞いて受け止める努力をしている 入所時、サービス計画作成時も話を聞いてプランに生かしている		サービス計画作成時などはなしを聞いてプランに生かす話しやすい雰囲気作りに心掛ける

鹿児島県 グループホームうえの(ふくの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めてプランを作成している		出来る事を見極め、生活レクに取り入れている
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時困惑することなく生活出来る様にスタッフが対応している。 家族へも説明している		声かけを行い安心して生活出来る様に対応する
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人を尊い信頼関係作りを行っている 昔の歌を聞かせてもらいスタッフが覚える、一緒に歌う。 食事の味付けをしてもらうなど		スキンシップを図り信頼関係作りに努める
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、情報提供など行い家族の意見を聞いたりして信頼関係作りを行っている		情報提供をまめに行い、の意見を聞いて信頼関係を築く
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、誕生会、敬老会、クリスマス会など本人との交流の場を設けている		行事参加を促して交流を図る
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方の面会や親類の面会、電話、暑中見舞いなど出して生活の様子を知らせる		小学校、保育園への声かけを行い交流を図る
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	本人のペースに合わせて生活出来る様に声かけや見守りを行いながら、利用者同士と一緒に助け合ったり、お互いに刺激を受けて生活を送られている、このような事が私たちの楽しみでもあります		出来る範囲内で助けたり、助けられたりされている。トラブル防止に努め孤立のない生活を支援して行く

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した場合は、HPのSWに相談して退院後の生活に困らない様に家族へ説明している		入院時は、お見舞いをかねて情報交換しより良い日々が過ごせる様信頼関係が保てる様にする
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン時に本人や家族に希望意向を聞いている日常生活に活かしている		プラン作成時に、出来るだけ家族と共に話し合いが出来ように声かけたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	回想法を取り入れて昔の事を話して頂く、入所時にも把握のため聞く		日々、数分でも個人との話しが出来よう努め回想法を高める
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	月1回、ケース会議や担当者会議で現状を把握し共通した支援できるよう努めている		一日の流れにメリハリをつけながら個々の現状を把握する
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議や担当者会議及び問題が発生した時に家族とスタッフ本人で話し合い作成している		日頃からのコミュニケーションを取り情報収集を行う
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議や担当者会議及び問題発生時に見直しを行っている		変化が生じた時点でケア会議を行い計画の変更を話し合い作成をする

鹿児島県 グループホームうえの(ふくの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース会議、担当者会議、申し送りノートなどで見直しを行っている		随時ケース会議をみなおし出来るよう、日々観察し記録に残す
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	3年未満のため、受け入れ資格がない		今後の課題である
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	野里小学校、民生委員、消防署、町内会長など協力により地域での生活が安全に楽しく出来る様に支援している		社会資源等の連携をとり、本人が安心して生きがいのある生活が出来るよう支援して行きたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の活用支援は行っていない		現在、対象者がいないが必要に応じ支援して行く
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの協働は出来ていない		今後は連携を取り協力頂きたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係り付け医の受診支援が出来ている		係り付け医との連携をとる、受診、往診支援をする

鹿児島県 グループホームうえの(ふくの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所時に診断書を頂いたり内服薬等の相談をしている		入所時の診断書、内服薬等の相談を行う
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	その都度、連携を取りながら相談支援している		当ホームには、看護師2名おり、その都度相談支援している
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会を細目に行い、情報交換や相談に努め早期復帰出来るように努めている		情報交換を行い早期復帰出来る様に努めている
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から、全員で話し合い、係りつけ医と相談し方針の共有をしている。必要に応じ、特別養護老人ホーム申請を家族と相談して行っている		家族へ特別養護老人ホーム申請を必要時行っている 家族が遠方の方も、電話などで話し合いをし、方針を共有している
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現状で重度や終末期の利用者が無く、何が出来るか見極め出来ていない		急変時のマニュアル作成し全員で慌てず出来る様に勉強会を開く
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人を交えて行政やサービス事業所と相談してグループホームから退所できた事実がある（自立して生活されている）		本人を交えて行政やサービス事業所と相談して出来た事実がある

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報やプライバシーは確保、ケース会議・担当者会議などで使用する場合承諾を得ている(本人・家族)	本人・家族への承諾を得る
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望に沿えるように支援し希望通りに出来た場合はほめたり共感したりする	本人のペースで生活出来るように支援し、誉めたり共感したりする
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活出来る様に声かけ、見守り行っている	本人のペースで生活出来る様に声かけ、見守り行っている
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は望み通り行っている、朝の身だしなみ(髪、洋服)行っている	理容・美容は望みどおり行う、あさの身だしなみ徹底している(髪、洋服、髭剃り)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、台ふき、コップ、はし等の軽い物の下膳など一緒に行っている	出来る事(食材の下ごしらえ、台拭き、コップなど軽いもの下膳など一緒に行く)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好調査を行い出来るだけ希望を取り入れている	甘酒を季節で飲む、嗜好調査行い希望を取り入れている季節が感じられる様、食卓の工夫は出来ているがもっと工夫して行く

鹿児島県 グループホームうえの(ふくの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表によって介助声かけなどで失禁が無い様に取り組んでいる		排泄表で管理し失禁がないように介助、声かけ行う
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴により喜ばれている。また、必要によりシャワー浴している		週3回の入浴により喜ばれている
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、日中の声かけに取り組んでいる		昼夜逆転にならないように、日中の声かけを行う
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々変化のある生活wめざして本人のペースを大切に支援している		行事を取り入れ日々変化のある生活を目指して支援
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人ではあるが所持管理が出来ており、手紙、荷物など送られる		生活用品の買物などで回数を増し所持や使い方の支援をする
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事(外食、遠足、温泉、ドライブ、花見など)屋外へ出て気分転換して頂く		個人の買物等の回数を増やす 園外散歩の取り入れをする
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参り、外食、温泉など家族と共通の時間を過ごせる様に家族の応援を頂きながら増やして行きたい		時々家族との病院受診やドライブ等の声かけ、日々の会話で個人の行きたい所を書きとめ、次回の外出などに結びつけるようにする

鹿児島県 グループホームうえの(ふくの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話～家族より、年賀状、暑中見舞いを通して本人の生活様子を知らせている		希望があれば、手紙は勿論電話での会話等楽しんで頂く様、家族や知人などに理解を頂く様スタッフが努力する
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	門扉など開けて入りやすい雰囲気作り、お茶など出しておもてなししている		訪問された方へ、また行ってみようと思って頂く様に日々気をつける
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒など危険がない様に見守り、介助など行っている		身体拘束の勉強会をし拘束を必要としない介護を目指す
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関等鍵はかけていない(徘徊時はスタッフが付き添う)		危険な物を取り除き出来るだけ見守り強化する 日中は玄関、居室、門扉は開放してある
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在確認など行い、スタッフ同士連携を取り実施している		所在確認、行動を確認し悟れない様行う
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は保管上鍵をしている		薬、洗剤などは適所にて鍵かけ保管し管理をする
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ間で薬の確認等実施している。ヒヤリハット、事故報告等で話し合い、意識向上に努めるようにしている		夜間は巡視にて所在確認、体交などする。戸締り、火気の確認等をする。ケース会議などでも話し合い知識向上を図る

鹿児島県 グループホームうえの(ふくの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議等で勉強をしているが現実には一部の職員のみが出来ている		勉強会を開きマニュアル本を作成しスタッフ個々で把握出来るよう努力する
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人に協力を得る様に働きかけ、定期的に避難訓練を行っている		定期避難訓練をし、地域の人々への訓練参加、協力の声かけをする
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人、家族へ説明して対応策を話し合っている、特老の申込等行っている		入所時からの説明等、日々の連絡等をまめにする
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行っている、受診が必要な場合は家族等へ連絡し連れて行く		バイタルチェック、夜間申し送り等にて情報を知り迅速な対応を心がける
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書に目を通して理解している服薬管理(飲まれた確認まで行っている、スタッフ同志で確認)		誤薬ない様にセットから服薬時までスタッフ同志声かけ確認を十分に行い日々様子観察に努める
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫(毎朝、バナナ牛乳、おやつにサツマイモ類を取り入れる)。リハビリ体操、ストレッチ、マッサージ、腹圧、歩行訓練等身体を動かす工夫に取り組んでいる		食事への食物繊維の食物を取り入れ水分摂取の声かけ細目に行い腹部のマッサージ等を心がける
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアをおこなっている、夜間ポリデント使用		毎食後の歯磨き声かけ強化し、義歯を外した状態の歯ぐき、噛み合わせ」などの確認をする

鹿児島県 グループホームうえの(ふくの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報に記録して食事、水分を把握している		日報を通し時間を区切り水分摂取の声かけを多くする
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種、手洗い、うがい、換気、衣類の調整を行っている		予防接種を行い、日々の手洗い、うがいへの声かけし、病気の事を勉強し予防対策を行う
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所へ入る時は、手洗い、エプロンは替える、調理用具は熱湯消毒をし、賞味期限を守っている		手洗いとエプロン交換の徹底、冷蔵庫内の掃除、まな板の除菌を細目にする。スタッフの爪切り徹底
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉は開放し誰でも入りやすい雰囲気作りに心がけている		玄関に花を飾り明るい対応に心がける
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る、毎朝の掃除に心がけている		日々の掃除の徹底、汚物処理(トイレ内)を迅速にする、不愉快な臭い等させない様に
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや玄関先に椅子等を置きテレビを観られたり、外気浴を楽しまれている		庭先のテーブルセットや外気浴用の椅子、リビングのソファやソファベッド等、いつでも使用できる様、掃除し危険性の有無など徹底し庭園の手入れをする

鹿児島県 グループホームうえの(ふくの家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具類を置いている		家具類だけでなく、馴染みの道具や好みの物を置き快い空間を作り、ゆっくりと過ごして頂く様努力する
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気をまめに行い、天気の良い日は窓を開けて空気の入替えに努めている		起床時の換気、温度・湿度計設置にて温度差が大きくなりすぎないように努めている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りや危険物の除去に努めている		危険物を除去し日々見守りを強化する
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	残存機能を生かしながら、今出来ることが継続出来る様に見守り声かけ行っている(個別に)		残存機能を生かし、料理の下ごしらえや調理参加、洗濯たたみなどの声かけをし、一緒に行動する
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	菜園や花園を作っている		ガーデンテーブルなど置き、外気浴等個々で出来る等にしたい

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

鹿児島県 グループホームうえの(ふくの家)

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

アピールする程の事は、特にありませんが利用者様にとって家族と離れて暮らす寂しさを考慮し、毎日楽しく生活出来る様に見守り励ます支援に心がけています。面会時等に、「前より元気になって、明るくなっている・・・」と喜んで頂ける事に、やりがいを感じると同時に、常に向上を目指す為には、ご家族様のご意見、ご希望をどしどし頂く事が、向上につながります。今後も、転倒しない様に健康管理をしっかり行い、スタッフ一同明るく楽しいホームで生活が送れる様に努力して参ります。